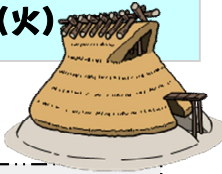




中央第一児童クラブ 出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年12月26日(火)

「どの活動も、子どもたちがとても興味をもって
夢中になって取り組んでいました。」

中央第一児童クラブの小学生45人が、冬休みクラブ内行事として、普段体験することが少ない古代の人々の暮らしを学び、文化財にも興味をもたせる目的で、勾玉作り、コースター作り、火起こしの3つの体験を行いました。

勾玉作り体験

粗さの違う3枚の紙やすりで滑石を磨きました。根気のいる作業でしたが、低学年の子どもたちも集中して磨いていました。

「ピカピカにできてうれしかった。」



今回は、1時間5分という短時間の中で仕上げなければならなかったのですが、少し急いで作業しましたが、なんとか完成しました。出来上がった勾玉を首からさげて大満足でした。



火起こし体験

はじめに、舞hiri法での火起こしの仕方を説明しました。低学年が多くてどうなるのかと心配しましたが、小さい子どもたちも頑張って弾み車を回して火種を作ることができました。上手に弾み車を回せないグループには、弾み車を一緒に回してあげて、全員が体験することができました。フーフータイムは、何人かで協力して息を吹きかけていました。集中しすぎて、顔がどんどん近くなり過ぎることもありました。頑張って火を起こすことができました。

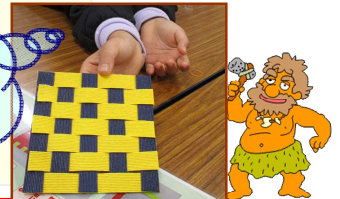
「むずかしかったけど、コツをつかめたら上手にできて楽しかった。」



コースター作り体験

コースター作りは、センターとして初の試みでしたので、作り方を上手に伝えられるか不安がありましたが、しっかり聞いてくれた子どもたちは、うまく作ることができました。中には、ボンドをつけすぎて、困ってしまったり、横バンドの間隔をあけすぎて、横バンドが1本余ってしまう子もいましたが、完成することができました。

「初めて作ることができてうれしかった。」



指導員さんの感想

「火起こしの体験を通して古代人の生活の大変さを感じることができたと思います。どの活動も、子どもたちがとても興味をもって夢中になって取り組んでいました。センターの職員さんの説明も丁寧で理解しやすかったと思います。子どもの質問にも一つ一つ答えていただきました。冬休みの楽しい思い出になったと思います。本当にありがとうございます。」

